

一般社団法人 埼玉私保連



広報

No.131

H29. 3月

発行



♪ は～やく芽を出せ
いものたね～ ♪

(いもかに合戦!?)

Saitamaken Siritu Hoikuen Renmei

平成28年度9月23日

平松先生研修会

保育者の職務は「児童の保育に従事する」ことであり、「保育」とは養護を含む教育という意味で解されます。そのため教育と福祉に携わる保育者の職務には専門職性が求められ、特に子どもの生活と発達の法則については、他の職業にもまして深い造詣を持つことが要請されます。そして

保育者には今後ますます高度の専門家としての職業的能力が要求されておられ、その向上のために研究・修

養（研修）に努めなければならぬでしょう。

今現在、職員のキャリアパスに向け各園でも力を入

れておられると思います。保

育職員と言ってもその置かれている立場や経験年数から様々です。そのため研修を受ける保育職員に相応しい内容が用意される必要があります。埼玉私保連では年間を通じ、立場や経験値に応じた内容の研修会を行っています。今号では秋から今春までに行われた埼玉私保連主催の研修会特集してみました。

（田村和之

「保育所行政の法律問題」
一部引用）

「職場のコミュニケーションを図って 誰もがしあわせになる 保育園づくりを」

日時／平成28年9月23日（金）

13：30～16：50

会場／大宮ソニック906会議室

講師／平松 知子先生

（社会福祉法人

けやきの木保育園 園長）

平松知子氏は名古屋市中で、初めて公設民営園を受託した社会福祉法人けやきの木保育園の園長先生で、園長職と並行して現在は大学院で研究、さらに専門学校の講師業も務めるといった非常にアクティブな先生です。そんな先生の園では指令書などを用意し、課題をクリアしていく職員旅行を企画する等、遊び心満載で「誰もが何でも言い合える様な雰囲気づくり」に力を入れています。

講演では、「保育の制度問題について」、「保育内容について」、「職員集団につい

研修特集

けやきの木保育園
園長 平松知子先生



て」の3点について、細かくお話を頂戴しました。まず保育制度についてですが、新制度がスタートし大きな転換点に立っているいま、「保育現場のしんどさ」を伝える為には、背景や現場での事象をしっかりと捉え、情緒的にだけではなく、論理的に考え伝えていく事の重要性をお話しされました。保育の規制緩和が進み、福祉からサービスに転換しつつある現状は、量は拡大しているが質の低下が懸念

されるとのこと。また自己責任論が強まる中で、特殊なサービスを売りとする園も出てきており、特に「企業主導型保育事業」は、質について公のチェック機能が働かない等の問題が多く、保育は「福祉」として「児童福祉法24条1項」を堅持していくべきだと訴えられました。

保育の内容についても、将来有望な労働力として規範意識を育て、お利口さんにする教育のあり方について危機感を語られていました。大阪市内では、新自由主義的な発想からか公立幼稚園、保育園を合併させて非常に大規模な認定こども園計画(定員600名超の構想も!!)が進んでいます。合理性を求め中、ただでさえ人的な配置が貧しい日本の保育環境が、更に貧しく管理的になっていく懸念があるそうです。小学校に行く為の準備教育として、読み書きなどの認知的な内容に力を入れるのではなく、一人の市民を育てるの、子どもが主体的に学ぶ保育の在り方に転換していくべきだと力説なさっていました。

また競争と格差が広がり、大人の都合最優先での育ちを強いられる子どもたちの権利を守る為、保育の養護としての機能がより重要になってきているという話をされました。また、「大切にされた子どもはやがて人を大切にする大人になる」という保育の力を信じ、人格を持った主体者として乳幼児期から大切に育てていくこと、子どもと親の抱えている背景を理解し、肯定的に受け止め、より丁寧に関わる力こそ保育者に求められているというお話を頂きました。

職員集団については、まずは職員会議を報告のみの会議にしない「笑う職員会議」を目指して、発言しやすい雰囲気作りや建設的な討論にしていく為のルールの重要性について話されました。また多様性を持った職員を育てていくために、その抱えている背景を読み解き、「誰が?」「どういう援助をしていくか?」を明確にし、保育実践の中で職員一人ひとりを丁寧に育てていくことなど、具体的な数々のご助言を頂きました。

深刻な事例を通しながら、保育の大切さを現場目線で力強く語る先生のご講演に感銘を受け、講演後のワークショップでは、参加者から様々な意見が出ていました。時代の変革期に立たされている我々保育者の立ち位置を見つめ直し、改めて仲間と力を合わせていく事の重要性を感じるとても良い機会となりました。

(研修部)



赤城先生の講義のまとめ

講師…赤城和重先生
(神戸大学院人間発達環境学科研究科准教授)

気になる子と

言わない保育

日時／2016年11月14日

13：45～16：45

会場／大宮ソニック601会議室

保育現場では、「気になる子」の存在がここ10年間で広く認知されるようになっていきます。そうした子達をどのように理解し、対応したらよいか迷う場面も多い現状から、神戸大学院の赤城和重先生を講師に迎え、子どもへの願いや思いに寄り添う保育について講演していただきました。



先生のご専門は発達心理学で、人が人に「教える行動」や障害のある子どもの理解と教育について研究されています。

研究会では「できない」ことを「できる」ようにする保育ではなく、子どもの今の「手持ちの能力を全面的に開花させる」保育について、わかりやすい言葉で優しくお話ししてくださいました。

講義は事例の映像を観て、自分だったらどうするかを考え、隣の人と話し合う形式が進められ、保育・教育にとって何が大切なのかを深く学ぶ機会となりました。

私たちが「子どものため」にしていることは、子どもの「できない」面を見ていて、今を犠牲にしても将来「役に立つ」とされる指導を優先していかないか、大人の姿勢が気になる子を作っているのではないか、今を犠牲にして子どもが幸せになれるのか、という問いから始まりました。保育実践が紹介される中で、子ども達の今を充実させるⅡ「手持ちの能力の全面開花」



について学びました。

事例として、特別支援学校で、「いけない」といわれる言葉を連呼してしまう自閉症の子どもとの関わり、ローテーションカードを見せて順番に数字を答える実践、保育所で紐をずっとふっている幼児を見守り続け、保育がしんどくなった保育者、自分の世界に入っただけでなかなか抜け出せない子への対応方法、等が紹介されました。(以下 講義内容抜粋)

子どもをよく見る、その気にさせる、子どもと本気で楽しむ、手持ちの能力の全面開花(特性から個性へ)をめざす。

・子どもは、自分の中で変わら

いと思った時、今持っている力から自ら学ぶ力がついていく。

・「こだわりをどうなくすか」や、「できなさ」を「どうできるようにするか」という視点ではなく、子どもの今できるものをどう開花させるかという発想が大事である。他の子どもや集団の中で花開くように、その原石を他の人にも伝えていくこと。

・人が変わるときは、お互いの関係性の中で変わるのではないか。手持ちの能力の全面開花が他者を変える。そして、その他者が自分をも変えていく。変わった自分または他者を変えていく、そしてまた：というプロセスが発達である。



・個と集団が育つイメージをとらえる

- 1 個の遊びの充実期
- 2 興味のあること・あそび・人に関心を持つ時期
- 3 集団のあそびや活動とこの充実に自分で折り合いをつける時期
- 4 集団の遊びと個のあそびがからみ、仲間の欲求で折り合いをつけ、豊かなあそびが連会する時期

まとめとして、発達はずいぶん前から動き出すので、一つの遊びが充実すると、他に興味が向けられるようになるので、「できない」ことを「できる」ようにさせるだけでなく、「今その子の持っている手持ちの力を輝かせるには」という視点で見えていくことが大事であるということでした。

また「保育の質の向上」とは、みんなで一緒に遊ぶことで、新しい遊びを創造し、みんなと遊ぶとちょっと面白いということに気づくことであり、遊びから「夢中と発見」という楽しさを追求していくことではないかという言葉で講義は締めくくられました。

(研修部)

平成28年11月24日「あそび歌報告書」

青年会議研修会

「子どもと楽しむ歌遊び」

日時／平成28年11月24日
会場／さいたま市文化センター
講師／ミツル&りょうた

54年ぶりの11月初雪の日、ミツル&りょうたさんを迎えて「子どもと楽しむ歌遊び」の研修会が始まりました。当日は悪天候もあり参加者は40名程でしたが、冗談を交えながら歌あり、ダンスありと盛りだくさんの研修会となりました。

「楽しくないとね!!」とお二人からのメッセージに続き、2人でも3人でも楽しく遊べる歌遊びが始まりました。二人のあたたかな歌声と親しみやすい曲に合わせて



次々に繰り返される歌遊びは、とてもエネルギッシュなステージでした。参加者もはじめは戸惑いながらもテンポ良く進む



ミツルさんとりょうたさんのペースに乗って、会場内の雰囲気が一気に賑やかになりました。

2人組での歌遊びは、子ども同士

はもちろん、保育士と子ども、そして親子でも楽しめるものもたくさんありました。今回の研修会では、玩具がなくても歌と誰かがいればこんなに遊びが楽しめることに気づかせて貰ったように感じます。また触れ合うことで、さらに楽しい気持ちが増えることを参加者の皆さんが心と身体を通して感じる時間になったようです。

保育士自身が楽しいと感じながら、目の前の子どもと関わることや身体を動かして遊ぶ保育が今ほど必要なのではないかと感じました。また研修会終了時に、本日の感想をお聞きしました。

- ①楽しかった。参加して良かった。
- ②乳児クラスを担当しているが、シアターを作ってみたいと思った。
- ③歌遊びや体操などは、現場です



青年会議部長
多田 郁子

埼玉私保連の
研修会にぜひ
ご参加下さい。

- ④こんなに動く研修会と思わなかったが、小さなクラスでも使える内容だったので園に持ち返って使いたい。また他の先生にも伝えたい。楽しかった。
 - ⑤勉強する研究会も大切と思うが、実践で活用できる研究会を今後もやって欲しい。
- 「ミツル&りょうたさんから」
サインをしている時に、「今日は雪だし寒いから本当は行きたくないと思っていましたが、参加してみても楽しかった。体を動かして遊びを楽しむことが出来て本当に良かった」と言って貰えた。また皆さんと遊びたいです。

青年会議

男性保育士研修会

「男性保育士としての成長とは？」

日時／平成29年2月7日

午後1時30分～16時30分

場所／WITH YOU

さいたま

講師／東京未来大学 専任講師

今井 康晴氏

参加者／33名



昨年に引き続き男性保育士向けの交流会を行いました。交流会の内容は2部構成にし、第1部では今井康晴先生から男性保育士としての成長について、現代の保育問題や男性保育士の特徴そして成長過程についてワークショップを交えながら行いました。

今井先生からは、現在の慢性的保育士不足や潜在保育士の問題点から、保育現場に男性保育士が活躍することは必然になっていることが述べられました。しかし一方で、男性保育士が保育の専門性を持った職員として認められていないことを提起し、ワークショップ1として「男性保育士には女兒の着替え・排せつなどに関与させないでほしい」という意見に対してどのように考えますか？をテーマにグループ討議を行いました。

先生方からは子どもや保護者と信頼関係を築くことが重要ではないか。男性保育士のイメージの問題もあるのではないか。保護者からみれば男性保育士は違和感もあり、それは母親だけではなく父親からとも考えられる。しかしこの

ような意見を持っているのは数人とも考えられるなどの意見が上がっていました。今井先生からも諸外国では男性が保育の仕事にすることがないとの話があり、男性保育士の需要は保育士不足の影響と比例しており、そこで求められる役割や成長を考えることも必要であると言われました。

また「男らしさを意識した保育をしていますか？」に関するワークショップでは、さまざまな意見が交わされましたが、「男らしさ」を気にすることよりも男女を問わず保育士としての専門性を追求し、乳幼児の発達を理解し5領域に則り環境を通して保育することが求められていると提案されました。

しかし女性保育士にはない男性保育士としての役割、例えば防犯対策や体操などの技能、サッカー指導等もその一部であると紹介され、さらに本来の専門性について熱く語られていました(以下の①から⑤に関する内容)。

- ①子どもの発達に関する専門的知識、また援助する技術
- ②子どもの生活援助に関する専門的知識、また援助する技術
- ③物的環境を整え、人的環境を生かす、環境を通して保育する技術
- ④子どもの興味・関心を生かした遊びを展開する技術
- ⑤保護者等への相談・助言に関する知識・技術

る知識・技術

最後に、本日の研修会や日々の保育活動と人間関係についても「主体性」が尊重されることが重要であり自己評価の蓄積と保育のスキル磨き、保育士としての見通しを持った自分の立ち位置を見つけていることが成長に繋がると話されました。

第2部では今井先生のお話しを受けてのグループ討議が行われました。

保育士グループと管理職グループに分かれ、さらに話しやすい人数にするために保育士グループは1グループ4～5名にして年齢も担当も異なるメンバーで意見交換がスタートしました。自己紹介から始まり次第に悩みや愚痴が聞かれるようになり会場は賑やかになっていきました。グループからの発表も行い以下のような発表がされました。

- ①職場では男性の意見が通りにくい。また職員会議などでの発言がなかなか困難である。
 - ②人間関係の築きは重要なので年下、年上関係なく話し合いが出来る環境が成長に大切である。
 - ③新人の先生から、初めての事で精一杯だが先輩に教えて貰いながら過ごしている。
- 保育士への憧れと現実の大変さ

- を感じる毎日である。
- ④ ワークショップ1の「排せつ等
に関与させないでほしい」の意
見から」
- 「男性だから」の偏見はやはり
ショック。保護者との関係性は
重要だが、園の方針で玄関先で
の受け渡しとなっており、日々
のようすをどのように伝えれば
よいのか悩む。
- ⑤ 処遇面で安い。できれば25万は
貰いたい(額面で)。また処遇
面の不安から結婚ができないの
ではと心配になる。また共働き
でないと生活できない。(この
回答を受け、会場で確認すると
6割は既婚者でした。)
- ⑥ ワークショップ2から「保護
者から男性保育士について何か
言われたりしたことはありません
か?の質問に対し、特にはなく、
逆に保護者から「気にならない」
と言われた。
- ⑦ 個々の得意分野を活かすことや
男性としてのメリットを感じる
こともある。
- ⑧ ワークショップ2の「男らしさ
を意識した保育」から「
男性にしかできない事も必要で
あり「男性にもできるんだぞ」
を認めて貰う。また逆にこの仕
事をしていて普段「女性らしさ」
を感じることは少ない。極端な
話、全員男性でも成り立つ仕事
ではと感じることもある。
- ⑨ 園に男性保育士が2名いると心
強い。
- ⑩ 産休がないため長期的に保育で
きる強みもあるのではないかと
思う。
- ⑪ ささまざまな家庭環境がある中で
男性保育士と関わることは子ど
もにとっても必要である。
- ⑫ 管理職グループから「環境
面での整備、特に働きやすい職
場の環境や上司との関係は重要
である。シフトについて始めは
早番と遅番の固定だったが、さ
まざまな経験を重ねることで成
長することに繋がるため変更を
行ったなどの話があった。
他にも保育士側からの意見にあ
るように、処遇面での悩みは今
後の将来性を考え管理職を目指
すことも必要ではといった意見
も出る。
- 以上さまざまな意見交換が行わ
れ、日頃相談できないことも互
いに話すことで共通の理解や認
識、悩みを分かち合えたように感
じました。参加者からこのよう
な男性保育士の研修会があまりな
いので、今後も続けて欲しいとの要
望もあがりました。青年会議では
現場の先生に沿った研修会の企画
を改めて大切にしようと感じまし
た。

青年会議 部長 多田 郁子

… 編集後記 …

「追悼 おヒヨイさん」

俳優の藤村俊二(ふじむら しゅんじ)さんと聞いて顔が思い浮かぶ人は多いでしょう。

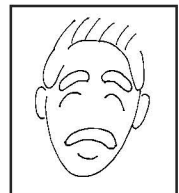
先日、その「おヒヨイさん」の愛称で親しまれた藤村さんが亡くなりました(1月25日82歳)。長男であり、所属事務所代表でもある藤村亜実さんの「お別れの挨拶」を引用して彼の生き方を少し紹介しましょう。

まず身内でもその生き方は昔からナゾらしく、『息子の自分にとって父はつかみどころがなく、… その自由で独特な生き方か…不思議でした。』と語っています。しかし、看病しながら付き添ったこの1年間にその秘密に気付いたといいます。闘病生活に苦しいと言わずいつも穏やかな雰囲気だった理由として、『何も不安に思うことなく、いつもその「瞬間」を大事に生きていたように思います。欲や執着もあまりありませんでした。…父はそうやって「今」を生きる方が自由で幸せだと知っていたのだと思います。』『すべてを受け入れ、何にもとらわれず、過去や未来から切り離された「永遠の現在」という時に生きる心は自由で幸せです。そのことを最後に父から学ばせてもらった自分たちも、これからの人生の「今」を大事に生きていきたいと思います。生前はたくさん「今」を親父と共に過ごしていただき本当にありがとうございました。… 藤村亜実』と綴っています。

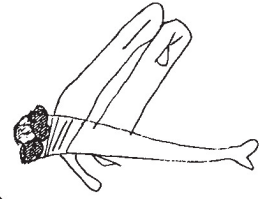
たいへん個人的な話で恐縮ですが、私は、前々からこの人の事が気になっていました。それは藤村さんが、うちの保育園の亡くなった理事長にいろいろと似ていたからです。理事長も藤村さんのようにユーモアを持ち合わせ、苦しい顔も見せず、「自由」を愛し「今」を一生懸命に生きました。そして目の前にいる多くの人を喜ばせようとするエンターテイナーでもありました。もっとも一番藤村さんに似ていたのはその風貌でしたが…。

藤村さん、そしてすべての「人の喜びのために生きたひと」へ お疲れ様でした。安らかにおねむりください。合掌。…

(S.K)



事務局 (一社)埼玉県私立保育園連盟
〒363-0015 桶川市南2-7-13 桶川中央マンション2F
TEL 048 (772) 8623
FAX 048 (772) 8635



保育園および園児を さまざまなリスクからサポートします

保育園経営には、さまざまなリスクが伴います。
 (公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、
 保育園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する
 各種保険を取り扱っております。

全私保連 保険制度

「保育園賠償責任保険」「保育園児団体傷害
 保険」「特別保育事業賠償責任保険」など、
 保育園経営に必要不可欠な保険をラインナップ
 しています。また、それらを総合的に補償する
 セットプランもご用意しております。

園児総合保障 共済制度

保育園児を24時間補償する共済制度です。
 保護者にとっては
 一般に比べてお得な掛金で
 高額の補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」や「園舎の火災保険」などの、
 保険を取り扱っております。
 ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

(公社)全国私立保育園連盟指定・東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
 TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

